

# 史遊会通信

NO. 180  
平成21年  
10月17日  
発行

事務局  
03--3712  
0651  
下山田方

九月講演要旨

横浜 開港 百五十年

— 開港時に灯された光 —

鍋屋次郎

今から百五十年前、安政五年（一八五八）

四月二十三日、神奈川沖のボウハタン号上

で、幕府はアメリカと日米修好通商条約を

締結し、その後短期間の中にイギリス、フ

ランス、ロシア、オランダと同様条約を次

々と締結した。そして翌安政五年（一八五

九）七月四日、神奈川は開港した。これは

明治改元十年前のこと。京都朝廷と攘夷派

は条約締結に反対し、当時、幕府の権威は

失墜し国内政情は混沌としていた。

このようなとき、翌安政六年（一八六〇）

十月十一日、アメリカ人キリスト教宣教師

夫妻が神奈川に上陸し、成仏寺を住まいと

した。その名は、ジェイムス・カーチス。

ヘップバーンとその妻クラリッサ・リート  
（通称クララ）である。

ヘップバーンは明るくよく響く声で自ら

を「ヘップバーン」と発音したので、日本人

は彼を「ヘボン」と呼んだ。

彼は来日後、七年の歳月を掛けて日本語

彙二万七百七十二語を集録し、体系的和英

辞典「和英語林集成」を編纂発行した。こ

れにより、欧米文化と思想に全く触れてい

なかつた日本が、明治改元以来短年月に欧

米文化と思想を吸収して、日本の近代化が

もたらされた。この「和英語林集成」こそ、

日本近代化への大きな光であった。

彼はプリンストン大学で古典を学び、ペ

例会のお知らせ

◎ 10月例会

日時 平成21年10月28日（水）

午後6時～8時

会場 目黒区民センター 7階

社会教育館 第2研修室

講演 隆恵氏

テーマ 王家の谷の謎

自由執筆は三戸岡道夫・柴田弘武・

山本鎮雄の諸氏。

締切り10月31日

◎ 11月例会

日時 平成21年11月25日（水）

午後6時～8時

会場 目黒区民センター 7階

社会教育館 第2研修室

講演 三戸岡道夫氏

テーマ 新しい資本主義の形態

（ソーシャルビジネス）

自由執筆は会員・友の会員による

「今年感動した三冊の本」

締切り11月30日

ンシルベニア大学で医学を修めた医学博士である。ペンシルベニア大学在学中にキリスト教宣教師を志し、ニューヨークで医師開業時代に日本開国を知り、夫妻で来日した。

彼は、キリスト教宣教師は聖書をその国の言語に翻訳し、その国の言葉でキリスト教を伝えるべきだ、と言う固い信念を持ち続けていた。従って来日する船中で「コレハナンデスカ」の日本語を覚え、来日後はこれを類発して語彙蒐集にあたった。

#### 語彙蒐集の労苦

日本語が全く分からないアメリカ人が、英語を全く知らない日本人から語彙を蒐集する。どうやって蒐集するのだろうか。私たちが今考えただけでも途方に暮れる。当時の日本人にはオランダ語を読み書きできる人はいた。二十六歳のオランダ語に堪能な福沢諭吉が横浜の居留地を歩いたときのこと、看板の文字や酒ビンのラベルが全く読めず蒼白になり、英語を学ばなければだめだと覚悟したといわれている。

ヘボンが毎日接するのは雇った四人の男性召使のみ。その他ヘボン見たさにやって

くる町人はあったが、警備の武士に追い返されている。やがて近くの宋興寺でヘボンは診療所を開く。毎日六十〜百二十人の患者が来たといわれている。あまりの盛況に、神奈川奉行は五ヶ月で閉鎖を命じた。庶民とヘボンの接触を恐れたのであろう。奉行所はヘボン夫妻の行動に疑心暗鬼で、来日目的を理解していなかった。

当時の日本語は文語体・口語体・武士言葉・町民言葉・男言葉・女言葉・相手身分の上下で使う言葉・方言などがあり、一つ言葉でも使い分けが幾種類もある。たとえば英語で *sit down* といっても、座れ、お座りなさい、掛けろ、お掛けなさい、お掛けくださいませ、などなどその場の状況、相手などによつて言い方が全て異なる。それから「茶の間」の「の」は所有の「の」なのか、何の「の」なのか、についても相当に悩んだ様子である。日本語の文法書もない。収集した語彙を一つずつカードに書きとめ、同じ意味のカードが数種類になったりして、言語学的分類も気が遠くなるような作業であったと思う。

彼が来日後四年経過した元治元年（一八六四）、岡山津山藩出身で儒官であった岸

田吟香が目の治療に来た。彼は英語をヘボンに教えてもらい、ヘボンは収集した語彙を正確な日本語に直して貰う、といういわばパータリ関係が成立し、慶応三年（一八六七）「和英語林集成」出版まで手伝った。上海での印刷にも同行し、校正も一手に引き受けた。

その間、攘夷志士による外国人殺傷が頻発し、ヘボンは神奈川奉行所の契めもあり、安全な居留地に移転し、そこで診療所を開いた。生麦事件発生時、神奈川奉行所からの火急の依頼に応じて、英国人の傷の手当もした。江戸で人気女形役者沢村田之助の壞疽の足を膝上から切断、アメリカから義足を取り寄せて舞台を続けさせたこともあり、江戸市中からも名医とうたわれていた。幕府は、高橋是清や林董など九名の青年をヘボンに預け教育を依頼、また、神奈川運上所（今の税関）役人への英語教授も依頼していた。

ヘボンの医療事業も、日本語彙収集も、「和英語林集成」編纂印刷発行も、全て無報酬で、ヘボンがニューヨークでの医師開業収入を蓄えたものから支出されている。さすがに「和英語林集成」印刷発行費用は

一時的に多額を要したため、アメリカ商人に立て替えてもらったが、販売収入で返済している。

聖書翻訳

「和英語林集成」完成後、來日しているプロテスタント各派宣教師をヘボン邸に招き、聖書翻訳委員会を設置、それまでにヘボンやブラウンが個人的に翻訳している新約聖書一部(ヨハネによる福音書など)があつたが、新たに共同で全巻を翻訳することとした。このときは明治五年(一八七二)でキリスト教解禁(明治六年)一年前のことである。

ここに、ヘボンが斯くあらねばならないと志していた宣教師段、「聖書をその国の言葉に翻訳し、その国の言葉で語る」への準備がついにスターとした。ヘボンが來日してから十三年が経過している。

ヘボンたちは原点に立ち返り、ヘブル語解釈に最も忠実に翻訳した。しかし問題はそれを翻訳した日本語文章である。その翻訳文章は、当時高い教育を受けている人しか理解できない擬古文体と、一般の人にもわかる日常語との中間文体を用い、知識

階級を満足させると同時に、他の階級の人々にも理解できる優しさを兼ね備える中庸を得た文語体とした。

この文章化は宣教師たちには不可能であり、翻訳の文章化には奥野昌綱ほか三名があたつた。奥野昌綱は、文政六年(一八二三)生まれ、昌平橋学問所に学び、明治四年(一八七一)からヘボンの翻訳作業を助ける。

やがて、明治十二年(一八七九)には新約聖書全巻翻訳完了(四八〇頁)、明治二十年(一八八七)には旧約聖書の全巻翻訳が完了した(一五〇二頁)。

翌明治二十一年(一八八八)二月三日、東京築地居留地内の新栄教会で聖書翻訳完成祝賀会が開催された。ヘボンは壇上に置かれた「新・旧約聖書」に手を置き、感謝の祈りと共に、奥野昌綱の聖書文章に感謝した。

ヘボンは來日後三十年を、「聖書の日本語翻訳」ただ一筋に生き、それを日本語知識皆無の状況から成し遂げた。その意思の強固さは、彼の信仰とキリスト宣教への固い信念に他ならない。

ここに忘れてはならないことは、ヘボン

自身は「キリスト教宣教」が目的であつたが、当時の日本は明治改元という、世界史的に見れば革命を通し、明治十年くらいまでは革命後の処理に追われ、政治的落ち着きはできていない。そのような中で、この「和英語林集成」は、日本人と日本国が欧米文化圏との距離を一挙に縮め、短年月の間に欧米文化と思想を吸収することを可能にした功績は筆舌に尽くしがたい。

明治天皇は明治三十八年(一九〇五)既にアメリカに隠棲していたヘボンに勲三等旭日賞を贈った。

横浜開港百五十年史を紐解くにあたり、この「和英語林集成」のみでなく、教育にも貢献(彼が始めたヘボン塾が後のフェリス女学院・明治学院となっている)したヘボンの功績に改めて感謝したい。

☆ ☆ ☆



自由執筆  
菅原道真の悲哀

島津 隆子

海ならずただよふ水の底までも

きよき心は月を照さむ

茫漠たる大海の水でなくても、漂うばかりのほんの僅かな水であれ、濁りなく澄んでいるのなら、月の光は無実の罪によって流されているこの穢れない私の心の底までも、照らすことであろう——と詠む道真の悲しみは深い。

何ゆえにこのような悲嘆の境涯に堕ちたのか。思えば、それはただ家柄の貧しさだけが、すべての原因であったにちがいない。道真の祖父菅原清公は貧しい学者である古人の子だったが、遣唐使の留学生となり、よく学んで大学の文章博士になった。そして、父の是善も貧しいながら精進して参議にまでなった、学者の一族である。道真はそのような環境に育った。

道真はその天才的な才能をもって父と同じ文章博士となり、出世コースを歩むのだ。道真の講義には天下の秀才が集い「菅家廊

下」と呼ばれるほどの人気で、官吏になる人の大半は彼の教えを受けた。

宇多天皇の信任も厚く、順調に出世して五十六歳にして右大臣になった。だが、当時、藤原一門は天皇家と並ぶほど全盛期だったから、道真の出世を快く思わぬ名門貴族が多かった。その頂点にたつのが左大臣藤原時平である。時平は事あるごとに、道真の悪口を宇多天皇へ注進に及んだが、天皇は耳をかさず、それどころか道真に対して信頼を深める一方であった。しかし、時平中心の藤原一族、加えて天皇家と血縁にありながら、道真に官位を追い越されてしまった源光などが密かに道真を陥れるべく陰謀を図っていた。

宇多天皇が退位し、醍醐天皇が即位すると時平たちは「道真には菅原家一族から皇位を立てようとする謀叛がある」と讒言に及んだのだ。道真は突然、九州大宰府へ追放されてしまう。

右大臣菅原朝臣寒門俄かに大臣に上げ治め給えり。しかるに止足の分を知らずして専横の心あり。へつらいの情を以って前の上皇の御意を欺き惑わすという醍醐天皇の宣命が下されたのだ。寒

門とは極めて貧しい家柄という意味であり、さきの上皇とは宇多天皇のことを指す。まことに屈辱極まりない宣告であった。驚愕したのは道真自身であった。

流れゆくわれは水藻となりはてぬ

君しがらみとなりて とどめよ

と宇多上皇に取り纏る道真だったが、事変に驚き宮中に駆けつけた上皇は、近衛兵に遮られ、天皇に取り次ぐ音沙汰もなかった。夕闇が迫り引き下がらざるをえなかった上皇は「道真よ許せ」と心の中で泣きながら詫びた。それほどに藤原一門の力は巨大であった。

宣告が下った七日後、昌泰四年(九〇一)二月一日道真は京の都を発つて配流の地に向う。そして二月も半は大宰府に着いた。寂しさは影絵のように彼に付き纏って離れない。しとしとと降る雨に心を寄せて、

あめの下かわけるほどのなればや  
着てし濡衣 ひるよしもなし

と、無実の罪で着せられた、この濡れた衣を乾かす術もないことを悲しむのである。後世、学問の神様とまで謳われた悲運の道真は、再び都の土を踏むこともなく、九州は筑紫の地で、五十九歳の生涯を閉じた。

自由執筆  
阿波局

森下 征二

今から凡そ八百年前、北条時政に阿波局と呼ばれた実の娘がいた。鎌倉幕府を開いた源頼朝の妻・政子の姉妹である。それだけではない。頼朝の異腹の弟・阿野全成の妻でもあった。

しかし、別に派手な活躍をした訳ではない。今では、名前さえも忘れられている程なのだ。ところが、今から四十四年前の一九六五年、永井路子さんの『炎環』が直木賞を受賞したお陰で、長い間歴史の闇の中に埋もれていた彼女は、一躍脚光を浴びることになってしまった。

『炎環』は四つの短編の連作だけに、登場人物が多彩である。政子や頼朝を始め、数多くの人々が非常に活き活きと活躍している。それらに伍して、阿波局も颯爽と登場したと言ふ訳だ。永井さんは、これらの人々を、次のように評価する。

彼らは、ある時は激しく、ある時は陰湿に命の炎を燃やしながら、権力の階段を駆け上ろうとした。一人ひとりが主役のつもりでひしめき合い、傷つけあうことによって、何時の間にか歴史の流れを変えて行った。それは丁度、一台の馬車につながれた数頭の馬が、思い思いの方向に車を引っ張った結果、思いもかけない方向に馬車が進むようなものだ……と。

なるほど。非常に人間臭い観方だが説得力がある。彼女の小説が、教条的な唯物史観に窒息しかけていた当時の人々に、広く歓迎されたのは当然だろう。

それはさておき、永井さんはこの中で、阿波局が三代將軍実朝の乳母であったことに注目する。平安末期以降、乳母と言う存在が、歴史的にも政治的にも非常に大きな意味を持ったと言ふ。天皇家は勿論、公家や武家など然るべき家に子供が生まれると、子の養育に当たるのは生母でなく、全て乳母であったからだ。

それだけではない。乳母の夫や子供も加わり、一家を挙げて若君に傳く。若君が成人し、然るべき地位に就いた時、乳母の一族は、絶大なる権力を握ることが出来るからだ。

ならば……、実朝が將軍になればどうか？

阿波局の実家、北条氏の力が益々強くなるはずだ。永井さんが実朝の乳母としての局に注目されたのは流石である。おそらく、彼女は和田英松氏の「国史国文之研究（一九二六年発行）」を敷衍されたのではないか？ そこには既に、「歴史上に於ける乳母の勢力」と「阿波局」の二篇の論文が収められているからである。

それはともかく、二人の説を併せると、鎌倉幕府の成立史は次のように展開する。

頼朝薨去後、二代將軍となった頼家を斥け、実朝を擁立しようとする北条氏の陰謀が相次いだ。何故か？ 頼家の外戚と乳母の一族は、共に比企氏で、放っておけば比企氏の勢力が、北条氏を駆逐する虞があったからだ。

これらの陰謀の中心に、政子や阿波局の弟・義時を挙げるのが通説だが、先ずは、義時の父・時政と政子が動く。將軍・頼家の訴訟親裁を禁止し、有力御家人十三人による参決としたのだ。次いで、阿波局が秘かに動いた。彼女は頼家の腹心である梶原景時を諷言し、これを誅殺させるきっかけを作ったのである。

それから三年後、阿波局の夫・阿野全成

が動いた。彼は頼朝の兄弟のうちで、その死後、只一人生き残った男である。非常に用心深い男だった。しかし動くと同時に、頼家に捉えられ殺されてしまう。長年、下積みで甘んじていた男が、やっと権力を握ろうと仕掛けた時、皮肉にも彼の足下には深い穴の口が開いていたのだ。

永井さんが示唆するように、彼は味方の北条氏の誰かに密告されたのだと思う。何故なら、実朝が將軍になった時、乳母の実家よりも密接に権力に近づくのは、乳母とその夫ではないか？ もはや全成は、北條氏にとって邪魔な存在になっていたのだ。では、全成を売った者は誰か？ 紙面の関係で詳述する暇はないが、私は阿波局ではないかと思っている。

何故か？ 北条氏の姉妹兄弟は、源氏と比べ結束が固い。「系図纂要」では、義時の子・泰時の母を、阿波局と記録しているほどののだ。もしもそうなら、彼女は弟の義時との間に、子をなしたことになる。では……？ そう、彼女は夫より弟を選んだのだ。全成滅亡の背景には、何かどす黒いものが潜んでいたのではないか？

自由執筆

佐倉の秋祭り

平山 善之

N君

肌寒さが忍び寄る十月、良い季節です。お元氣ですか。

十月は、佐倉の秋祭り、麻賀多（まがた）神社の祭りがあります。前は十月十四日から三日間でした。今は中頃の金・土・日の三日間です。土・日にする件は長年、市民や神輿の担ぎ手から要望があったのですが、数年前宮司が代わって、実現しました。前宮司は「例祭を人が勝手に変えられない」と頑なでしたが現宮司は「神前のおまつりは私が従来どおりやります。市民の秋祭りは皆さんの宜しいように」と、捌けたものです。山形県酒田市でも頑固な宮司に市民が困り果て、五年程前佐倉商工会議所に、どう説得したのかと聞きにきました。結局は宮司が変わったお陰と聞いてがっかりして帰りました。宮司は勝手に変えられないようです。

佐倉の総鎮守、麻賀多明神は、式内社です。千二百年以上の歴史があります。

昔印波国造がいたと思われる、印旛沼を見下ろす高台（成田市台方）に今でも本社はありますが土井利勝が佐倉城を築いたとき、大手門近くに勸請し鎮守としました。神社仏閣は城の防衛機構としても重要でしたから、歴代城主は篤く尊崇・保護しましたので、現在は本社以上の社域を誇ります。

麻賀多明神の大神輿は氏子が白丁で担ぎます（前は被った烏帽子は、邪魔にして最近被らなくなっています）。掛け声も「わっしょい」とか「ソイヤ」などとは言いません。「明神まつり」と片棒が叫ぶと反対側が「さらば久し」と応じます。さらば久しは見物人には「さっ」としか聞こえず、「何と言っているの？」とよく聞かれたものです。

ところで、麻賀多神社という名前は何に由来するのでしょうか。実ははっきりとしたことは解っていません。「神社辞典・東京堂出版・平成九年刊」には

「古く千葉県印旛郡一帯は麻の産地として知られ、麻県（まあがた）といい、これに因んでこの社名がつけられた」という説と、「麻賀多は真若田（下毛野君の弟）であり祭神稚産霊命は真若田の訛ったもの」とする説を紹介していますが、確証はない、と

しています。

また一説にはマカタは「真濁」で印旛沼をさす、とする人もあるようです。

柴田弘武氏は著書「産鉄族才氏・新編東国の古代」(崙書房・平成二十年)の中で「マカタはマクタやモウダと同じ言葉とされます。この点からも馬来田国造と印波国造との親縁関係がうかがわれます。」と書かれています。

麻賀多、馬来田、望陀、いづれも当て字で漢字は表記に使われたにすぎず、音がさきにあったものでしょうか。とすれば、この音は何に由来するものでしょうか。

上総国望陀郡という郡がありました。今の木更津市、袖ヶ浦市近辺です。和名抄では「まうた」と訓じています。更に古くは馬来田国(うまくた、または、まくた)という、クニでありました。この地方は良い麻が採れることで有名でした。

「千葉県史」は上総の望陀布という一節を設けて上総の麻は質、量ともに他国を圧倒的に凌駕していたことを論証しています。「延喜式」記載の諸国の「調」で上総の麻は、質・量ともに他の国々を圧倒していました。望陀布は、美濃?(あしぎぬ)と並んで律令に固有名詞で記載されているほか、

践祚大嘗祭の垂れ幕や幌は望陀布が使われる規定があり、また遣唐使が大唐皇帝への贈答に用いた品でもあったそうです。

麻の字は、音読みでは「マ」です。「マウタ」も「マクタ」も良い麻の採れる所という意味があつたかもしれせん。

私は、馬来田国造と印波国造との親縁関係はよく解りませんが、麻賀多神社も麻に由来する名前だという思いを捨てきれません。その根拠は、佐倉の名前の起こりは、「麻倉」だったという説です。

#### 自由執筆

#### 犬と政治家

瀧澤 中

いえ、「政治家の走狗」とかいう意味じゃないんです。政治家のペット(この表現もなんか誤解されそう)のことです。

西郷さんは大の犬好きで、贈り物を絶対に受け取らなかつたのに、犬の錦絵は大喜びで貰って、その絵をしまう専用行李がいくつあつたといひます。

維新後の鹿児島で、犬と一緒にうなぎ屋に入つて、鰻井を注文しては犬に与えてい

佐倉という名の起源も確たる説はないのですが、佐倉は戦国以前は現在地ではなく、東へ二里ほど行った所でした。印波国造の居住地、台方に近いところでした。そこに麻を納めておく大きな倉があつたと空想するのは、アサクラのアという音は簡単に消えてサクラとなつた、という説は有り得る話だと思いませんか? 因みに麻賀多神社の紋章は麻の葉です。

佐倉も秋祭りが過ぎると一挙に秋色深まり寒さが訪れます。風邪などひかれぬよう。

たので店の主人が怒つて食事を出してくれなかつたという話も残っています。

時代を飛んで昭和のこと。

浅沼稻次郎の飼つていたのは「タロー」という和犬でした。浅沼の住んでいた深川のアパートの玄関いっばいに寝そべつていて、記者たちはおっかなびっくり跨いで入っていました。巨漢の浅沼が着流しでタローを連れて散歩している姿は、西郷さんによく似ていたといひます。

吉田茂も大の犬好きで、スピッツを飼つていた時期がありました。その写真を見た小学生が「犬をわけて下さい」と吉田に手紙を出したら、なんと、「仔犬が生まれた

らあげます」と、吉田直筆の手紙が小学生に届いたという話が残っています。

目を海外に転じますと、ヒトラーの愛犬に「ブロンディ」というジャーマン・シェパードがいます。ヒトラーが自殺する前日、ブロンディも毒殺されますが、その際、ヒトラーが部屋を出て行ったあと、そのドアから視線を外すことなく亡くなったといえます。人間不信の固まりのような独裁者も、犬だけは愛したようですね。

チャーチルも愛犬家でプードルを飼っていました。チャーチルにはもう一匹、手ごわい犬がいて、彼は「黒い犬」と呼んでいました。それは鬱病のことです。チャーチ

ルは鬱病に悩まされていましたが、犬に例えてうまく付き合おうとしていました。

アメリカの大統領が犬をホワイトハウスの飼うことは知られていますが、実は犬だけではありません。第六代のアダムス大統領はワニを、八代のヴァン・ビューレン大統領は虎を、十五代のブキャナン大統領は象を、二十八代のウィルソン大統領はタバコを噛むのが好きだった羊を、そしてケネディは犬・猫・ポニー・兎・馬・ハムスターなどを実際にホワイトハウスで飼っていました。

政治家はいつも人に囲まれて人と会ってはいませんが、個人としては極めて孤独です。その孤独を癒すのに、たとえば本妻以外の女性と付き合う人もいますが、人間はややこしくなる事があるので（笑）、その点犬はお金を欲しがることも結婚を迫ることもなく、ビスケット一枚で尻尾を振ってくれますから、結構な存在です。

ここに取り上げた犬たちのほとんどは屋内で飼い主と一緒に寝起きしていました。つい最近まで犬は番犬用だったことを考えますと、彼らが犬を使役用ではなく愛玩用として側に置いたことがわかります。

そういえば日露戦争で大活躍した明石元二郎は、後に陸軍大將になってからも犬を布団の中に入れて一緒に寝ていたそうです。個性的な人たちは、犬の飼い方も個性的、ということかもしれません。

### ● 参考文献

※ 会員の活動

▲ 相原精次氏

はまぎん産業文化振興財団発行の

「マイウェイ」No. 72に

『かながわ名瀑物語』

▲ 島津隆子氏

\* 新人物往来社編

「姫君たちの大戦国絵巻」に

『おふう 奥平信昌夫人』

\* 「幕末明治美人帖」(新人物文庫)に

『新時代を担った女たち』

※ 訂正をお願いします。

史遊会通信No. 179

四頁下段13行、14行、15行目、

柴田弘武氏発言のうち

『鬼の大辞典』↓『鬼の大事典』

牡とセックス↓鬼とセックス

人だった。↓人です。

## 祝 受 賞

三戸 岡道夫氏

日本文芸アカデミー賞

ゴールド賞

作品名 『二宮金次郎の一生』